



Mr Teruhiko Tsumura, GTE Newsletter Write-Editor

欧米で新たに出現するテクノロジーの探し方

本シリーズは3回にわたり、北米、欧州そしてイスラエルで新たに生み出されるテクノロジーの種をどのように探すことができるかについてお話しいたします。本号は最終号となり、テクノロジースタートアップ企業の具体的なリストをご提示します。LRIではこれに関連して、テクノロジースタートアップ企業の支援サービスをご提供しています。詳細につきましては最後の頁をご覧ください。

4. テクノロジースタートアップ企業のリスト

テクノロジーのベンチャーキャピタルは常に有望なテクノロジーの種あるいはスタートアップ企業を探している。一方、テクノロジーのスタートアップ企業もベンチャーキャピタルを含む、投資家を探している。今日の社会において、多くの人に、プレゼンス(存在)を知ってもらえる最良の場所はインターネット上である。よって、このようなスタートアップ企業のニーズを受け、スタートアップ企業を多く抱える組織は、そのウェブサイトにもそれらスタートアップ企業のリストを掲示する傾向にある。ベンチャーキャピタルにとってもそのようなウェブサイトは重要な、初期情報源となっている。

テクノロジースタートアップ企業を多く抱える、あるいはそれらと関係をもつ組織の代表例は以下の通りである。

- インキュベータ
- アクセルレータ
- クラウドファンディング(エンジェルサイト)
- (テクノロジー)クラスタ
- 政府支援プログラム (例えば Horizon 2020 のサイト)

4.1 インキュベータ

インキュベータ(Incubator)とはテナントにオフィススペースと備品を提供する組織である。インキュベータはこれまで、大学そして非営利団体が設置することが一般的であったが、最近はベンチャーキャピタル、そして一般企業が設立する例が見受けられる。日本にも各地にサイエンスパーク、リサーチパーク等があるが、それらは企業の発展段階にとらわれず、既に確立された大手企業等もテナントとなっている。一方、インキュベータはスタートアップ企業だけのためにある。

インキュベータは1970年代に米国から始まった。今日、米国には1,000前後のインキュベータがあると推測される。欧州にもおおよそ1,000のインキュベータがある。インキュベーションも一つの産業であり、例えば米国にはNational Business Incubation Associationと呼ばれる業界団体がある。欧州のインキュベータの半数近くはドイツにあるが、それらの多くはドイツのテクノロジー企業がバックカーとなっている。インキュベータの最近の傾向として、後述するアクセルレータのプログラムを併設する場合があることを挙げることができる。すなわち、助言者(メンター)そして資金も同時に提供する場合がある。

米国における主要なテクノロジーインキュベータの例としては以下がある。

- [Austin Technology Incubator of The University of Texas at Austin](#)(テキサス大学オースティン校) : The University of Texas at Austin のインキュベータ。クリーンエネルギー、バイオ・ヘルス、ICT等。多くの個人がエンジェル投資家となっている。

- [Advanced Technology Development Centre, Georgia Technology Institute](http://massbiomed.org/tenants/barber-avenue-tenants)(ジョージア工科大学)：1980年にジョージア州アトランタの工科大学に設置された、フォーブズの2013年のランキングで世界12位のインキュベータ(2010年はトップ10の一つ)。これまでに20億ドルの資金を集めている。
- Massachusetts Biomedical Initiatives (マサチューセッツ・バイオメディカル・イニシアチブ)：バイオメディカル分野のスタートアップ企業の成長を支援。テナントは研究設備を共同で利用。3か所に施設をもっている。様々な大学、ベンチャーキャピタル、地方団体等がパートナーとなっている。

<http://massbiomed.org/tenants/barber-avenue-tenants>

<http://massbiomed.org/tenants/redstone-center-tenants>

<http://massbiomed.org/tenants/gateway-park-tenants>

一般の民間企業がインキュベータ(あるいは後述するアクセラレータ)を運営する目的は、その投資から得られるリターンではなく、新たなイノベーションに巡り合い、それを自らのビジネスに取り込むためである。非製造業の企業として、例えば経営コンサルタントのKPMGがIgnition Centresという名称のインキュベータの[第一号](#)を米国デンバーに設立する。同様に英国のデパートメントのJohn Lewisが[JLab](#)と呼ぶインキュベータを設立する。これらはいずれもイノベティブなソリューションの開発を支援して、その成果を自らのビジネスに役立てようとするものである。企業はICTの可能性が自分たちのビジネスに十分に試されていないと考えており、それを外部のイノベティブな力によって解決しようとしている。

4.2 アクセルレータ

アクセラレータ(Accelerator)は、短期間に集中的な助言によりテクノロジーの種、すなわちシードを育てることを目的とする。アクセラレータは助言のみならず、資金も提供する。ビジネスモデルとしてはベンチャーキャピタルであり、投資に対するリターンを求める。最初のアクセラレータは2005年に米国で立ち上げられたY Combinatorである。同社は1社当たり12

万ドルの資金を提供して3か月間、シリコンバレーへ招いてディスカッション等をするメニューを提供している。同社は既に800社を超えるスタートアップ企業を育てている。

他の有名なアクセラレータとしては、米国のTechStarsと英国のSeedcampを挙げることができる。前者は米国以外ではロンドンとベルリンで活動しており、民間のパートナー企業(例えばバークレ銀行)とも協調して活動している。同社は助言と11万8千ドルを提供する代わりにスタートアップ企業のエクイティの7-10%を要求する。量よりも質をという考えのもと、年間に扱う件数は低く抑えている。後者はロンドンにオフィスを構え、ベンチャーキャピタルを中心とした機関投資家、エンジェル投資家そして一般企業が支援者となっている。同社以外に80を超える企業が、資金を含む様々な支援を提供する。

その他の有力アクセラレータとしてForbesが以下の8社を[トップ10のアクセラレータ](#)に含めている。

- DreamIt Ventures
- AngelPad
- Launchpad LA
- Excelebrate Labs
- Kicklabs
- 500 Startups
- TechNexus
- Tech Wildcatters

4.3 クラウドファンディング

クラウドファンディングは個人投資家(エンジェル)とスタートアップ企業を結び付けるためのプラットフォームであり、近年急速に人気を得つつある。新たなベンチャーキャピタルの設立が、2007年に発生した世界的金融危機を受けた規制強化でハードルが高くなった中、クラウドファンディングの設立は、社会全体における起業育成の観点から重要となっている。(LRIの最近の調査によると、例えばロンドンで2000万ポンドの資金を扱うベンチャーキャピタルを立ち上げるとすれば、その立ち上げ時に約100万ポンド、そして毎年の運営に約50万ポンドの費用がかかる。このように高い費用は新規のベンチャーキャピタルの設立を妨げると想像される。)テクノロジースタートアップ企業を対象としたクラウドファンディングの例を以下、いくつか紹介する。

[Angellist](#)

Angellistは米国で2010年に設立された後、これまでに250程度のスタートアップ企業に対して約1億ドルの資金をもたらしている。ビジネスの所有者であれば、誰でもサイトに募集内容を書き込むことができる。投資家は3,000人くらいに上り、ITセクターで有名な人たちも参加している。数多くあるクラウドファンディングの中で、同サイトが最も成功していると考えられる。

AngelList の最近の特徴として、シンジケートのプラットフォームを挙げることができる。これは一人のエンジェルあるいはベンチャーキャピタルがリードして他のバックカーたちが、彼らに(将来の利益に対する)フィーを支払って共同で投資できるシステムである。これはベンチャーキャピタルに投資しているようなものであるが、フィーの計算方法が異なることに加えて、バックカーは(シンジケートの選択を通じて)投資先を選択することができるという違いがある。また最低投資金額が比較的低い。リードする投資家はイーコマース、モバイルといった分野における投資の専門家である。Twitter、Facebook 等の初期投資家で Uber、Evernote 等のアドバイザーを務める Tim Ferriss 氏には 1,000 人以上のバックカーがついている。

Crowdcube

Crowdcube は英国の University of Exeter の The Innovation Centre に本拠を置き、ベンチャーキャピタルの Balderton Capital 及び 570 人の個人投資家の支援を受けている。(英国の Financial Conduct Authority の規制下にある。)これまでに 240 を超えるスタートアップ企業に総額 8000 万ポンド強の資金をもたらしている。

Crowdcube も AngelList 同様に投資の専門家あるいはベンチャーキャピタルと共に投資できるプラットフォームをもっており、個人投資家はエクイティ、ベンチャーファンド、ミニボンドに投資することができる。

4.4 クラスタ(ハブ)

クラスタは関連する産業の地理的な集中を指す。スタートアップ企業も、集中することから生まれる便益を求めてクラスタの中に位置しようとするため、クラスタのウェブサイトにもそれら企業の情報を見つけることができる。テクノロジークラスタ(あるいはテクノロジーハブ)は欧米の様々な都市に形成されており、それらの No1 である Silicon Valley 以外に、例として以下を挙げることができる。

- East London Tech City : Silicon Roundabout と呼ばれる、東ロンドンにあるクラスタ。同クラスタの特徴としてロンドンのシティとの関連で財務に関連したテクノロジーのスタートアップが多く含まれていることである。

- Silicon Wadi : Wadi とはヘブライ語で Valley を意味する。Tel Aviv を中心としてイスラエルの海岸線に沿ってハイテク企業が集中。
- Paris-Saclay Innovation Cluster : パリの西にある、フランスの代表的な複数のリサーチ機関を中心としたテクノロジーハブ。

4.5 政府支援プログラム

様々な国において政府はテクノロジーの R&D のための資金援助を、シード(種)段階の起業家やスタートアップ企業に対して行っている。欧州に関しては、各国政府も行っているが、予算規模からして EU の、テクノロジー特に ICT を主な対象とした研究支援プロジェクトである Horizon 2020 は多くのスタートアップ企業そして中小企業を支えている。Horizon 2020 SME Instrument にはそのような企業がリストされている。

米国においてはオバマ大統領のもと連邦政府がクリーンテクノロジー、医療、高度製造システム、IT、その他のイノベティブなテクノロジーのスタートアップ企業の支援を行っている。そのプログラムは” Startup America” と呼ばれ、Impact Investment Initiative、そして Early-Stage Innovation Initiative という名称のそれぞれ 10 億ドルの資金援助の他、様々な支援ツールが用意されている。

その Startup America のサイトには支援するスタートアップ企業のリストはないが、同プログラムと連携して活動する Startup America Partnership (現在これは UP America に移行中であり、それは更に Up Global に発展する予定である)のもと、州ごとにスタートアップ企業のプラットフォームが形成されている。例えば Tennessee 州には ” Startup Tennessee” がある。同プラットフォームは州知事のイニシアティブによって設立されたもので 9 つのアクセラレータプログラムを通じて資金援助が行われている。Startup America Partnership のもと現時点で 32 の州・地域でスタートアップ企業のプラットフォームが立ち上げられており、15,000 を超えるスタートアップ企業が参加している。以下、いくつかの例を紹介する。

http://www.startuptn.com/list-of-companies/?stage_id=2

<http://www.startupcolorado.com/startup-map>

<http://www.startupnm.org/startup-genome-put-your-startup-on-the-map/>

4.5 その他

上記の 4 つ以外にも、例えば、テクノロジー関連の国際見本市(展示会)のサイトにはそれらの出展企業のリストが通常掲載されている。たいていの国で、展示会の参加には政府の援助があるため(特に海外の展示会には)、テクノロジーのスタートアップ企業がパートナー、投資家、ユーザ(アプリケーション)を求めて参加する場合がしばしばある。LRI が運営する

GreenTechEurope.com ではそのような企業も多く取り上げている。

5. 最後に

3回に渡った本シリーズでは、欧米のテクノロジースタートアップ企業を見つける方法について述べた。欧米全体では毎年おそらく数百万という数のスタートアップ企業が生まれていると推測される。そのうちテクノロジースタートアップの数はおそらく年、数万件であろう。それらの多くはテクノロジークラスター(あるいはテクノロジーハブ)の中にあり、その地域のスタートアップ企業の地図に名を連ねているであろう。そして政府、アクセラレータあるいはクラウドファンディングによる資金援助を得ているであろう。このようにして、本シリーズで一部を紹介したウェブサイトのリストのいずれかに名前を載せている確率は高いと考えられる。各々のサイトにはたいていの場合、検索機能がついているから関心のあるテクノロジー分野に限定して企業を探することができる。

それらのサイトを見て、更なる情報収集の対象企業を絞り込むことは時間を要する作業である。しかしながら、何度か行う度に関心のあるサイトを限定することができるであろう。またその作業を行う中で、テクノロジーの大きな流れが掴めるかも知れない。特に取り上げるテクノロジーの種はないという結果さえ意義があると考えられる。そして自らが資金を提供して既存のアクセラレータに協調プログラムを設置する提案を行おうという結論となるかも知れない。

スタートアップ企業の段階で戦略的投資家として出資すれば、商業化を共同で実施することができであろう。それによりそのテクノロジーの可能性を独占することも可能である。またライセンスを得る場合も、早いほど良い条件で取得可能である。企業を傘下に収めることも可能である。

近年、欧州のテクノロジーの国際展示会に来場者に多くの中国人を見かける。ベンチャーキャピタルが熱い視線を向けるイスラエルにおいても同様である。今年同国で開かれた、農業関連のテクノロジーの最大の展示会である Agrinvest の来場者の 10 人に 1 人は中国からであったことが報じられている¹。同様に、少なくとも中国のアセットマネジメント会社 2 社がロンドンに拠点を構えて、とりわけグリーンテクノロジーのスタートアップ企業に投資を行っている。彼らの目的の一つが投資したテクノロジーをより大きな市場である中国へ適用することである。テクノロジー分野における国際競争が激化する中、海外におけるテクノロジ

一の種探しは中国企業のみならず、日本企業にとっても益々必要となっている。

世界の主要都市間におけるテクノロジースタートアップの誘致競争が既に始まっている。先述したロンドンの Tech City は、2010 年に David Cameron 首相の強い意向を受け政府の協力のもと始められたテクノロジー(特にデジタル産業)プラットフォームであるが、本年度(2015 年度)も 220 万ポンドの政府予算がついている。その資金は海外のスタートアップの誘致にも使われる。日本のスタートアップ企業に対しては「日英イノベーションビジネスコンテスト」という名称の公募が現在行われており、優勝上位 2 社には副賞としてロンドンのオフィススペースが一定期間無料で与えられる。ロンドンのテクノロジー産業は既に年商 180 億ポンドにまで拡大しており、デジタル産業への投資は過去 10 年間で 1,000 件以上となっている。Google はロンドンに欧州の拠点を置き、Campus London というプログラムを 2012 年から実施しているが、同プログラムのもと既に 42,000 人の起業家あるいは開発者が支援を受けている。

追記：弊社 LRI では、欧米そして日本のテクノロジースタートアップの方々への支援を行っています。加えて、既に確立されたテクノロジー企業の皆様に対して、イノベティブなテクノロジー探しのお手伝いをしています。以下をご覧になり、ご質問等がありましたらご遠慮なくお知らせ下さい。

¹ John Reed in Jerusalem and Charles Clover in Beijing, "China investment in Israeli companies rises", *Financial Times*, 14 May 2015.



LRI では Green Tech Europe.com(GTE) を運営し、最新のエネルギー・環境技術情報を無料でご紹介しています。GTE を通じ、アフリカを含めた全世界に優れたエネルギー・環境技術を展開するためのサポート活動を行っています。

**London
Research
International**

London Research International
Elizabeth House, First Floor, Block 2
39 York Road
London, SE1 7NQ
Tel: +44(0)20 7378 7300
Fax: +44(0)20 7183 1899
<http://www.londonresearchinternational.com/>
<http://www.greentechurope.com>
<http://www.pmc-africa.com>



**テクノロジー
コンサルティング**

市場分析、シナリオづくり、戦略アドバイス、マーケティング等

**スタートアップ企業
のサポート**

資金調達、セールス&マーケティングサポート、プロジェクトマネジメント等

**テクノロジー
モニタリング**

新たなテクノロジーのモニタリング（お望みの分野）、月例報告書

**テクノロジー
の仲介**

ライセンス探し
パートナー探し

**海外展示会出展
のサポート**

適切な展示会のご提案、展示物資料英訳、主催者とのコミュニケーション等



テクノロジーコンサルティング

- **市場分析**
新たなテクノロジーに対する貴社の R&D 投資判断のための、想定市場の規模の推測および特徴の分析
- **シナリオづくり**
貴社のテクノロジーの商業化までに想定されるリスクを評価するための、様々なシナリオづくりと考察
- **財務的実行可能性評価**
貴社のテクノロジーの商業化の財務的実行可能性を検討するためのキャッシュフロー予測
- **コンプライアンスリスク評価**
関連する法規制の洗い出し及び評価と、適合するための確かな計画づくり
- **競合分析**
貴社のテクノロジーの可能性を最大限に引き出すための、市場のポジショニング分析
- **戦略アドバイス**
貴社のテクノロジーを商業的成功に導くための戦略の策定
- **マーケティング**
貴社のテクノロジーの真の価値を、潜在的なディストリビューターやユーザーに正確に伝達



スタートアップ企業のサポート

- 資金調達のサポート

私たちはベンチャーキャピタルや個人投資家(エンジェル)から、あるいはクラウドファンディングを通じて、貴社が必要とする資金の調達のお手伝いをいたします。

- マーケティング&セールスのサポート

弊社のワールドワイドのネットワークを通じてサポートいたします。貴社がロンドンにマーケティングと販売を目的とした会社を設立されるご意向がある場合は、弊社がその会社にエクイティ参加することも可能です。

- プロジェクト・マネジメント

貴社の代理人として必要に応じてサポートいたします。弊社がもつマネジメント能力は海外でのビジネスの立ち上げ、オペレーションのお役に立つと自負いたします。



London Research International
Consulting | Technology & Energy

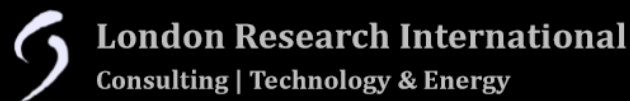
London Research International Ltd.,
Elizabeth House, 39 York Road, London, SE1 7NQ, United Kingdom
Email: info@LondonResearchInternational.com
Tel: +44-(0)20-7261-9597
WWW.LONDONRESEARCHINTERNATIONAL.COM



テクノロジーモニタリング

新たなテクノロジーの種は今や世界のあらゆる国・地域から出現しており、そのような種を育てるための資金は、今や世界を駆け巡っています。欧米のテクノロジー企業は、自社内で革新的なテクノロジーを生み出すことには限界があると考え、テクノロジー企業家とともにそのテクノロジーを開発し、ビジネスに取り込む様々な戦略をとっています。このように、出現するテクノロジーをシステムティックにモニタリングしている日本企業はまだ少ないのが現状です。

LRI では、お客様のご関心があるテクノロジー分野、ニーズに沿ったモニタリングを実施し、月例報告書をお送りいたします。情報収集は LRI の各国のリサーチャーにより行われ、LRI が運営する GreenTechEurope.com、有料コマーシャルデータベース、リサーチャーによるインタビュー等が主な情報源です。



London Research International
Consulting | Technology & Energy

London Research International Ltd.,
Elizabeth House, 39 York Road, London, SE1 7NQ, United Kingdom
Email: info@LondonResearchInternational.com
Tel: +44-(0)20-7261-9597
WWW.LONDONRESEARCHINTERNATIONAL.COM